グローバル教育へ！　iEARN　＆　JEARNの紹介

JEARN 沖縄　　沖縄尚学高等学校　上野浩司

ueno@okisho.ed.jp

ICT を使った国際交流

学校現場にインターネットが完備され、地球規模において国際化が急速に進展する中、教育の情報化と国際化が急務の課題となってきた。文部科学省も、「英語が使える日本人」の育成を急務としている。多くの学校で取り組もうとしているのが、ICT を使った国際交流だが、そこにはいくつもの課題が存在している。

たしかに、急速に発展してきたインターネットにより、世界中と簡単につながることができる。インターネットを利用したテレビ会議は、特別な技術を必要としなくなってきた。しかし、「つながることができる」のと、「交流することができる」には、大きな違いがある。

交流をどう始めるのか

国際交流をしてみたいと考える学校は、まず交流相手を見つけることから悩まなくてはならない。そして、運良く相手が見つかったとしても、相手とどのような交流を続けていくか、「長続きする交流」に頭を悩ませる。

テレビ会議を利用してどんな交流を行うだろうか。自己紹介、ご当地自慢、質問大会、ゲーム。テレビ会議を使った交流で、まず思いつくのはこのあたりのことであろう。最初の数回は、これで交流できるが、その後はどうするか。

あるいはいくつかの交流相手とこのパターンで順番に交流を続けたとしたら、子どもたちはすぐに飽きてしまい、興味を持たなくなるだろう。

「長続きする交流」のためには、ともに続けていくための「何か」が必要である。

プロジェクト型の交流

交流のベースにプロジェクトを持つと、交流の形が大きく変わる。相手校と共通のプロジェクトを持ち、協働学習を進めるのである。その過程で、必要に応じてテレビ会議を利用するならば、いつも目的を持った有意義なテレビ会議が行われ、会議のネタに悩むことはなくなる。互いに途中経過を報告し合い、刺激し会える。時には、考え方の違いで意見の対立もあるだろう。しかし、その対立を通して、相手と自分たちとの違いを知り、相互理解が生まれ、異文化理解につながるだろう。

「英語が使える日本人」構想

文科省が発表した「英語が使える日本人」構想は、今までの文法中心の英語から、使える話せる英語への転換を迫られたものであり、学校現場ではとまどう教員も多い。また、小学校への英語教育の導入も予定されている中で、子どもたちが主体的に英語を学びたいと思える環境作りも重要視される。そのような環境の構築に、プロジェクトベースの国際協働学習は、最も適しているのではないだろうか。

子どもたちは、海外と交流することを通して、英語学習に興味を持ち、英語を話して海外の友人達と話したい、話そうとする。意思疎通を目的とした英語学習こそが、「英語が使える日本人」を育てる力になる。

その交流を通して、地球規模の発想を持ち、友情を育むことにより、平和を願う心を持った真に国際感覚豊かな英語を話せる日本人が育っていくと考える。

iEARN（アイアーン）

iEARN（International Education And Resource Network）は、国際交流を支援する世界最大規模のネットワークで、世界 100 カ国以上、7000 以上の学校が参加している。交流の中心はプロジェクト学習で、150 以上のプロジェクトで国際交流を支援する組織である。1988 年に、ニューヨークとモスクワの高校生をつないだ国際協働学習が、世界中の教育者に支持され、現在の規模にまで発展している。映画監督のジョージルーカスが主宰しているルーカス財団も、iEARN を支援しており、また遠隔教育としてのアイアーン・オンライン講座は、世界中から教員がこの講習を受けて、プロジェクト学習の手法を学んでいるが、講座修了者は米国の大学では３単位が認定されるほどの充実した内容で進められている。

プロジェクトへの参加

インターネットを通じて、様々な交流が提案され、新しいプロジェクトが年々増えている。環境問題、児童労働の問題など社会的なものから、芸術、子どもたちの遊びを考えるものなどその内容も多岐に渡っている。

教師と生徒は、web ページから自分たちに最もぴったりのプロジェクトを探し、プロジェクトコーディネータに、その参加を申し出る。あとは、コーディネータから、交流相手校決定の連絡を待つばかりである。交流相手校もアイアーンに参加している学校であるから、トラブルが起きた時はその国のコーディネータが解決に協力してくれる。安全な相手と、安心して交流が始められるのである。

教師同士の交流

アイアーンでは、教師同士の交流ももちろん盛んに行われている。ともにプロジェクトを進める同士が、メーリングリストで話し合い、時には困っている国のために、アクションを起こしたりもする。昨年末のイラン南部地震では、その支援のために、多くの人々が立ち上がった。日本の学校でも、イランと交流している学校が中心になり、募金活動が行われ、イランへ多くの義援金が送られた。阪神淡路大震災での経験から、子どもたちへのケアについて日本の小学校の先生の手紙は、イランの新聞に掲載されて、心のケア活動の参考書にもなった。

年に一度、iEARN のメンバーが顔を合わせる世界大会も毎年行われる。昨年は、日本で行われ、会場の淡路夢舞台に世界 60 カ国から 1,000 名が参加し、今年は７月にスロバキアに世界中から参加者が集まった。

JEARN（ジェアーン）

iEARN の日本での窓口は、グローバルプロジェクト推進機構、通称 JEARN である。日本でアイアーンの交流に参加するには、JEARN を通して行う。JEARN に会員登録すると、iEARN の会員にも登録される。毎月、アイアーン活動のニュースが送られてくるほか、会員の参加するメーリングリストでは情報交換や国内交流も盛んに行われている。テレビ会議などの技術的な問題も、このメーリングリストで解決することが多い。iEARN の web にある豊富な交流情報を、自由に見ることができる権利も手に入る。

会員には、年会費１万円の個人会員の他に、無料のお試し会員（ビギナー）などの制度もあるので、是非、登録してほしい。

JEARN の web ページは

http://www.jearn.jp/japan/

会員登録については

http://www.jearn.jp/japan/kaihisei/